

## 研究拠点形成事業 平成 27 年度 実施計画書

A. 先端拠点形成型

### 1. 拠点機関

日本側拠点機関：	東北大学流体科学研究所
(フランス) 拠点機関：	国立応用科学院リヨン校
(ドイツ) 拠点機関：	フラウンホーファー非破壊検査研究所
(中国) 拠点機関：	南京航空航天大学
(スウェーデン) 拠点機関：	王立工科大学

### 2. 研究交流課題名

(和文)： 省エネルギーのための知的層材料・層構造国際研究拠点  
(交流分野： 工学)

(英文)： International research core on smart layered materials and structures  
for energy saving

(交流分野： Engineering)

研究交流課題に係るホームページ：<http://www.ifs.tohoku.ac.jp/c2c/>

### 3. 採用期間

平成 25 年 4 月 1 日 ～ 平成 30 年 3 月 31 日

( 3 年度目)

### 4. 実施体制

#### 日本側実施組織

拠点機関： 東北大学流体科学研究所

実施組織代表者 (所属部局・職・氏名)： 流体科学研究所・所長・大林 茂

コーディネーター (所属部局・職・氏名)： 流体科学研究所・教授・高木 敏行

協力機関： 神戸大学、東海大学、独立行政法人物質・材料研究機構、東京大学、  
千葉大学

事務組織： 東北大学国際交流課

**相手国側実施組織**（拠点機関名・協力機関名は、和英併記願います。）

(1) 国名： フランス

拠点機関：(英文) INSA de Lyon

(和文) 国立応用科学院リヨン校

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：(英文)

INSA de Lyon・Professor・CAVILLE Jean-Yves

協力機関：(英文) Grenoble-INP、Ecole Centrale de Lyon

(和文) グルノーブル工科大学、リヨン中央理工科大学校

経費負担区分 (A型)： パターン1

(2) 国名： ドイツ

拠点機関：(英文) Fraunhofer Institute for NDT

(和文) フラウンホーファー非破壊検査研究所

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：(英文)

Fraunhofer Institute for NDT・Professor・BOLLER Christian

協力機関：(英文) Karlsruhe Institute of Technology, Saarland University, TU Dresden

(和文) カールスルーエ工科大学、ザールラント大学、ドレスデン工科大学

経費負担区分 (A型)： パターン1

(3) 国名： 中国

拠点機関：(英文) Nanjing University of Aeronautics and Astronautics

(和文) 南京航空航天大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：(英文)

Nanjing University of Aeronautics and Astronautics・Professor・QIU Jinhao

協力機関：(英文) Xi'an Jiaotong University, Tsinghua University,

Shanghai Jiaotong University

(和文) 西安交通大学、清華大学、上海交通大学

経費負担区分 (A型)： パターン1

(4) 国名： スウェーデン

拠点機関：(英文) KTH Royal Institute of Technology

(和文) 王立工科大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：(英文)

KTH Royal Institute of Technology・Associate Professor・LUNDELL Fredrik

経費負担区分 (A型)： パターン1

## 5. 全期間を通じた研究交流目標

本事業は、東北大学とリヨンとの大学との過去10年以上にわたる研究交流を通して開拓された「知的構造材料」に関する研究分野の発展形として位置づけられ、近年進展の目覚ましいマルチマテリアル多機能性材料とセンシング技術との融合により、新たな知的構造体の創成を目指す。特に、知的構造体と流体との相互作用に着目した新しい省エネルギー機能を実現するための学理基盤を構築する。このために、東北大学を中心とする日本とリヨン、グルノーブルを中心とするフランスの研究チームに加え、センシング技術の産業応用について実績のあるドイツ・フラウンホーファ研究機構、中国における知的材料構造研究の重点拠点である中国・南京航空航天大学、境界層制御の拠点であるスウェーデン王立工科大学が加わり、研究を加速させる。

上記の研究分野を構築するための研究として、主に以下のテーマについて取り組む。

- 1) センシング機能と境界層の制御機能を有するスマート構造炭素繊維複合材料
- 2) スマート伝熱、制振、潤滑機能を有する知的層構造材料の開発
- 3) 耐食性を有する受動傾斜フィルムによる新しいエネルギープラント材料システム

これらの共同研究について、情報を共有するとともに学理を抽出するために、交流期間中に毎年セミナーを開催する。また、若手研究者の発掘と育成のために、サマースクールの開催、国際大学院の連携、を積極的に推進するとともに、若手研究者の回遊研究を通じた研究者交流を図る。

## 6. 前年度までの研究交流活動による目標達成状況

研究協力体制については、先進的輸送機械のための知的層材料・層構造研究及びエネルギープラント保全のための知的層材料・層構造研究に関する共同研究テーマのそれぞれに対して、構築した研究協力体制を活用して、それぞれのテーマに関連する要素研究と応用研究について推進した。また、平成26年度より拠点機関としてスウェーデン王立工科大学が加わり、拠点機関である東北大学・流体科学研究所との長年にわたる流動制御に関する共同研究体制を活用して、本研究を加速させることとした。学術的な観点からは、知的層材料・層構造研究の基盤となる、最適化設計手法に基づくマルチマテリアルシステムの創成、流動との相互作用による機能発現、スマートセンシング、等の研究領域について、学理基盤の構築のための共同研究が具体的な成果を出した。若手研究者の育成については、仙台においてエネルギーと安全・安心の観点からの知的材料・構造に関するサマースクールを、またドイツ・ザールブリュッケンにおいて非破壊検査に関するウィンタースクールを開催し、将来の研究者である大学院生に国際共同研究プロジェクトの意義について交流を通して理解してもらった。また、国際シンポジウムを1回、国際ワークショップを1回開催し、本研究に参画するメンバーの間で情報共有を行うとともに、新たなメンバーの開拓、取り組みに関する情報発信を行った。また、第1次若手回遊研究については、若手研究者による共同研究成果が得られている。

## 7. 平成27年度研究交流目標

### <研究協力体制の構築>

日本、フランス、IZFP、南京航空航天大学、KTH スウェーデン王立工科大学におけるジョイントラボラトリや共同研究体制を活用して、先進的輸送機械のための知的層材料・層構造研究及びエネルギープラント保全のための知的層材料・層構造研究に関する共同研究テーマについて、要素研究から応用研究にいたるまでの幅広い研究を推進する。東北大学・リヨン大学間の学術的な研究を国際産学連携に発展させるための取り組みを行う。また、設置を申請している CNRS の Unite Mixte Internationale (UMI, 国際混成研究所)の計画の具体化と本研究課題との連携について明確にする。

### <学術的観点>

知的層材料・層構造研究の基盤となる、マルチマテリアルシステムの最適化設計手法の検討、流動との相互作用による機能発現のモデル化、スマートセンシング、等の研究領域について、構築された学理基盤の中間評価を行う。また、知的層材料・層構造研究に移行するにあたって、これまでの幅広い共同研究を見直し、選択と集中を検討する。若手研究者が海外において滞在し共同実験を行うことにより、応用展開と、本研究の学理の深化のための研究を推進する。

### <若手研究者育成>

リヨンにおいて、知的材料・構造に関するサマースクールを開催し、将来の研究者である大学院生に国際共同研究プロジェクトの意義について理解してもらうための活動を継続して行う。また、実施中の第1次若手回遊研究について、中間評価を行うとともに、回遊研究の改善を行う。また、若手研究者に本研究拠点における共同研究を実際に担当してもらうことにより、グローバルな視野をもつ研究者となるべく育成を行う。

### <その他（社会貢献や独自の目的等）>

本拠点では、国際産官学連携研究を目指しており、日本、フランス、ドイツ、中国、スウェーデンなどの大学と産業界との連携を推進する。このために、東北大学産学連携先端材料研究開発センターに平成26年度に設置した日本とフランスとの産学連携のためのジョイントラボラトリとの連携を積極的に行う。

## 8. 平成27年度研究交流計画状況

### 8-1 共同研究

整理番号	R-1	研究開始年度	平成25年度	研究終了年度	平成29年度
研究課題名	(和文) 先進的輸送機械のための知的層材料・層構造研究 (英文) Smart layered materials and structures for advanced transportation				
日本側代表者 氏名・所属・ 職	(和文) 圓山 重直・東北大学流体科学研究所・教授 (英文) MARUYAMA, Shigenao, Institute of Fluid Science, Tohoku University, Professor				
相手国側代表 者 氏名・所属・ 職	(英文) BOLLER, Christian・Fraunhofer Institute for NDT・Professor KAPSA, Philippe・Ecole Centrale de Lyon・Director of Research (CNRS) QIU, Jinhao・Nanjing University of Aeronautics and Astronautics・Professor LUNDELL, Fredrik・KTH Royal Institute of Technology・Associate Professor				
参加者数	日本側参加者数	44名			
	(フランス)側参加者数	21名			
	(ドイツ)側参加者数	6名			
	(中国)側参加者数	12名			
	(スウェーデン)側参加者数	3名			
27年度の 研究交流活動 計画	航空機や地上輸送システムへの適用を念頭に、1) 流動との相互作用による機能発現の検討、2) スマートセンシング材料の創成についての研究を進める。研究項目1については、界面流体现象のモニタリングと数値解析を融合した「計測融合シミュレーション」による乱流モニタリングと、乱流制御技術についての要素研究と同時に統合化研究を行い、若手研究者による共同実験を行う。また、炭素系コーティングによる超低摩擦潤滑についての研究についても実施する。研究項目2については、知的層構造を用いたスマートセンサと多機能CFRPに関する要素研究を引き続き行うとともに、知的層構造・層材料としての設計を行う。また、超高サイクル疲労のメカニズム解明と損傷評価について若手研究者を中心に研究を行い、先進的なモニタリング研究のための方針を得る。				

<p>27年度の 研究交流活動 から得られる ことが期待さ れる成果</p>	<p>1) 流動との相互作用による機能発現、2) スマートセンシングの設計について、平成27年度はこれまでに構築したモデルや設計に基づいて、若手研究者が海外において滞在し共同実験を行うことにより、統合化に着手するとともに応用研究への道筋をつける。これらの成果により、本研究の学理の深化のための研究の蓄積を行う。</p>
--	---

整理番号	R-2	研究開始年度	平成25年度	研究終了年度	平成29年度
研究課題名	(和文) エネルギープラント保全のための知的層材料・層構造研究 (英文) Smart layered materials and structures for energy plant maintenance				
日本側代表者 氏名・所属・職	(和文) 高木 敏行・東北大学流体科学研究所・教授 (英文) TAKAGI, Toshiyuki, Institute of Fluid Science, Tohoku University, Professor				
相手国側代表者 氏名・所属・職	(英文) DOBMANN, Gerd・Fraunhofer Institute for NDT・Professor CAVAILLE, Jean-Yves・INSA de Lyon・Professor CHEN, Zhenmao・Xi'an Jiaotong University・Professor LUNDELL, Fredrik・KTH Royal Institute of Technology・Associate Professor				
参加者数	日本側参加者数	47名			
	(フランス)側参加者数	23名			
	(ドイツ)側参加者数	9名			
	(中国)側参加者数	15名			
	(スウェーデン)側参加者数	2名			
27年度の 研究交流活動 計画	エネルギープラントの保全の高度化のための知的層材料・層構造研究として、1) 新しいセンサ・モニタリングのための材料の開発、2) 耐熱、耐食性を有する新しいエネルギープラント材料システム研究、のための要素研究を実施する。研究項目1として、これまでに行った新しいマルチセンサの設計・試作と基本性能評価に基づいて、センサの高度化を図る。耐食性を有する受動傾斜フィルムによる研究については、これまでに受動傾斜フィルムの基本特性評価を行ってきたが、これに基づく材料設計を行う。また、非常に挑戦的である水素脆化のモニタリングに関する検討も、継続して検討を行う。				
27年度の 研究交流活動 から得られる ことが期待される 成果	エネルギープラントの保全の高度化は、エネルギー生産の効率化につながり、大きな省エネルギー効果をもたらす。本研究では、保全の高度化につながる、検査・モニタリングのためのセンサ材料研究、耐食性を有しかつモニタリングの用意な材料システムを、マルチマテリアルの概念、知的層構造の概念を適用することにより研究を行い、保全高度化のための知的基盤を構築する。平成27年度はこれまでの要素研究をさらに進め、応用展開に着手するとともに、挑戦的なテーマについては引き続き若手研究者による共同実験により研究を加速させる。これらの成果は、平成28年度以降の応用研究を円滑に進めるための基盤となる。				

## 8-2 セミナー

整理番号	S-1
セミナー名	(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「第3回省エネルギーのための知的層材料・層構造国際シンポジウム」
	(英文) JSPS Core-to-Core Program “3rd international symposium on smart layered materials and structures for energy saving“
開催期間	平成27年10月28日 ~ 平成27年10月29日 (2日間)
開催地(国名、都市名、会場名)	(和文) 日本、仙台、仙台国際センター
	(英文) Japan, Sendai, Sendai International Center
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 高木 敏行・東北大学流体科学研究所・教授
	(英文) TAKAGI, Toshiyuki, Institute of Fluid Science, Tohoku University, Professor
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外での開催の場合)	(英文)

### 参加者数

派遣先 派遣	セミナー開催国 (日本)	
	A.	B.
日本 〈人/人日〉	30/ 70	20
フランス 〈人/人日〉	5/ 25	5
ドイツ 〈人/人日〉	2/ 10	5
中国 〈人/人日〉	3/ 10	5
スウェーデン 〈人/人日〉	2/ 10	5
合計 〈人/人日〉	42/ 125	40

- A. 本事業参加者 (参加研究者リストの研究者等)  
 B. 一般参加者 (参加研究者リスト以外の研究者等)

※日数は、出張期間（渡航日、帰国日を含めた期間）としてください。これによりがたい場合は、備考欄を設け、注意書きを付してください。

<p>セミナー開催の目的</p>	<p>本国際会議は、流動ダイナミクスに関する国際シンポジウム ICFD2015 との連携により開催する。本国際研究拠点を通しての共同研究の要素研究について発表を行い、省エネルギーのための知的層材料・層構造の開発と応用にむけた、具体的な議論を行う。また、本国際研究拠点の活動について、ICFD2015 に参加している世界の流動ダイナミクス研究者に対して情報発信を行う。</p>	
<p>期待される成果</p>	<p>省エネルギーのための知的層材料・層構造国際研究拠点の研究について、主要参加研究者の研究の進捗状況について情報を共有する。また、5カ年の研究の中間とりまとめを行い、研究の選択と集中を議論する。さらに、研究者交流や若手育成についても意見交換を行い、本研究領域の国際展開のための方針を得る。本研究拠点の取り組みを世界に向けて情報発信する。</p>	
<p>セミナーの運営組織</p>	<p>以下のメンバーによる実行委員会を組織する。  高木 敏行・東北大学流体科学研究所・教授  CAVILLE, Jean-Yves・INSA de Lyon・Professor  BOLLER, Christian・Fraunhofer Institute for NDT・Professor  QIU, Jinhao・Nanjing University of Aeronautics and Astronautics・Professor  LUNDELL, Fredrik・KTH Royal Institute of Technology・Associate Professor</p>	
<p>開催経費 分担内容</p>	<p>日本側</p>	<p>内容 国内旅費 印刷製本費 会場費</p>
	<p>(フランス) 側</p>	<p>内容 外国旅費</p>
	<p>(ドイツ) 側</p>	<p>内容 外国旅費</p>
	<p>(中国) 側</p>	<p>内容 外国旅費</p>
	<p>(スウェーデン) 側</p>	<p>内容 外国旅費</p>

整理番号	S-2
セミナー名	(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「Lyon ELyT スクール 2015」
	(英文) JSPS Core-to-Core Program “ELyT School 2015 in Lyon“
開催期間	平成27年8月30日 ~ 平成27年9月8日 (10日間)
開催地(国名、都市名、会場名)	(和文) フランス、リヨン、国立応用科学院リヨン校
	(英文) France, Lyon, INSA de Lyon
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 高木 敏行・東北大学流体科学研究所・教授
	(英文) TAKAGI, Toshiyuki, Institute of Fluid Science, Tohoku University, Professor
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外での開催の場合)	(英文) CAVAILLE, Jean-Yves・INSA de Lyon・Professor

#### 参加者数

派遣先 派遣	セミナー開催国 (フランス)	
	A.	B.
日本 〈人/人日〉	A.	10/ 130
	B.	10
フランス 〈人/人日〉	A.	5/ 50
	B.	15
ドイツ 〈人/人日〉	A.	1/ 12
	B.	1
中国 〈人/人日〉	A.	1/ 12
	B.	1
スウェーデン 〈人/人日〉	A.	1/ 12
	B.	1
合計 〈人/人日〉	A.	18/ 216
	B.	28

A. 本事業参加者 (参加研究者リストの研究者等)

B. 一般参加者 (参加研究者リスト以外の研究者等)

※日数は、出張期間 (渡航日、帰国日を含めた期間) としてください。これによりがたい場合は、備考欄を設け、注意書きを付してください。

セミナー開催の目的	<p>若手研究者の育成の前提として、国際的な研究者を志向する若手人材の発掘が必要である。そこで、フランス、ドイツ、中国、日本の大学院学生で、本研究交流課題に関連する研究を行っている者を募集し、サマースクールを開催する。目的としては、学生にグローバルな視野を持たせ、海外との学生と共同でプロジェクトに取り組む機会を与え、将来の国際共同研究のマネジメントを学んでもらう。</p>	
期待される成果	<p>本サマースクールを通して、将来の知的層材料・層構造研究を担う若手学生を発掘する。また彼らに国際的な視野を持つことの重要性を認識させるとともに、海外の研究者とのコミュニケーション能力を涵養する。講義分野としては、知的層材料・層構造に関する研究領域を構成する1) マルチマテリアル、2) ナノスケール科学、3) 保全科学、4) 非破壊評価学、5) 流動ダイナミクスについて講義を行う。さらに、最新の研究動向についてプロジェクト課題について取り組む。</p>	
セミナーの運営組織	<p>以下のメンバーにより企画運営を行う。</p> <p>高木 敏行・東北大学流体科学研究所・教授  和田 直人・東北大学流体科学研究所・特任教授  CAVILLE, Jean-Yves・INSA de Lyon・Professor  KAPSA, Philippe・Ecole Centrale de Lyon・Director of Research (CNRS)</p>	
開催経費 分担内容	日本側	内容 外国旅費
	(フランス)側	内容 会場費 印刷製本費 会議費 フランス国内旅費
	(ドイツ)側	内容 外国旅費
	(中国)側	内容 外国旅費
	(スウェーデン)側	内容 外国旅費

整理番号	S-3
セミナー名	(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「ELyT ワークショップ・省エネルギーのための知的層材料・層構造セッション」
	(英文) JSPS Core-to-Core Program “Special session for smart layered materials and structures for energy saving“
開催期間	平成28年2月～3月を予定
開催地(国名、都市名、会場名)	(和文) 南フランスにて開催予定
	(英文) France
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 高木 敏行・東北大学流体科学研究所・教授
	(英文) TAKAGI, Toshiyuki, Institute of Fluid Science, Tohoku University, Professor
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外での開催の場合)	(英文) CAVAILLE, Jean-Yves・INSA de Lyon・Professor KAPSA, Philippe・Ecole Centrale de Lyon・Director of Research (CNRS)

#### 参加者数

派遣先 派遣	セミナー開催国 (フランス)	
	A.	B.
日本 〈人／人日〉	A.	20/ 120
	B.	20
フランス 〈人／人日〉	A.	12/ 48
	B.	30
ドイツ 〈人／人日〉	A.	1/ 5
	B.	1
中国 〈人／人日〉	A.	1/ 6
	B.	1
スウェーデン 〈人／人日〉	A.	1/ 5
	B.	1
合計 〈人／人日〉	A.	35/ 184
	B.	53

A. 本事業参加者(参加研究者リストの研究者等)

B. 一般参加者(参加研究者リスト以外の研究者等)

※日数は、出張期間(渡航日、帰国日を含めた期間)としてください。これによりがたい場合は、備考欄を設け、注意書きを付してください。

セミナー開催の目的	<p>東北大学およびリヨン大学連合とのジョイントラボラトリープログラム <b>ELyT</b> のワークショップにおいて、本研究交流のための特別セッションを設け、これまで長期間にわたって行ってきた共同研究活動に、新たにドイツ、中国、スウェーデンの研究者が参加してもらい議論を行うとともに、今後の共同研究計画について、意見交換を行う。また、本研究の取組みについて、大学全体の取組みとして情報発信を行う。</p>	
期待される成果	<p>日本とフランスにより長期にわたって構築してきた共同研究活動を核にして、ドイツ、中国、スウェーデンの研究が加わることにより、本研究交流と研究活動の一層の深化が期待される。また、2016年の設置を目標に申請している CNRS の <b>Unite Mixte Internationale (UMI, 国際混成研究所)</b> と本研究プログラムの連携について議論を行うとともに、東北大学、<b>INSA-Lyon</b> 両大学の国際戦略における本研究課題の位置づけを明らかにする。</p>	
セミナーの運営組織	<p>以下のメンバーにより企画運営を行う。</p> <p>高木 敏行・東北大学流体科学研究所・教授  和田 直人・東北大学流体科学研究所・特任教授  <b>CAVAILLE, Jean-Yves</b>・<b>INSA de Lyon</b>・Professor  <b>KAPSA, Philippe</b>・<b>Ecole Centrale de Lyon</b>・Director of Research (CNRS)</p>	
開催経費 分担内容	日本側	内容 外国旅費
	(フランス) 側	内容 フランス国内旅費 会場費 印刷費 会議費
	(ドイツ) 側	内容 外国旅費
	(中国) 側	内容 外国旅費
	(スウェーデン) 側	内容 外国旅費

整理番号	S-4
セミナー名	(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業第3回ワークショップ 「航空工学・流体科学・知的構造に関するジョイントシンポジウム」 (仮称)
	(英文) JSPS Core-to-Core Program 3 <sup>rd</sup> Workshop “Joint Symposium on Aerospace engineering, Fluid Science and Smart Structures” (Tentative)
開催期間	平成27年6月22日 ~ 平成27年6月22日 (1日間)
開催地(国名、都市名、 会場名)	(和文) 中国、南京、南京航空航天大学
	(英文) China, Nanjing, Nanjing University of Aeronautics and Astronautics
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 高木 敏行・東北大学流体科学研究所・教授
	(英文) TAKAGI, Toshiyuki, Institute of Fluid Science, Tohoku University, Professor
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外での開催の場合)	(英文) QIU, Jinhao・Nanjing University of Aeronautics and Astronautics・Professor

#### 参加者数

派遣先 派遣	セミナー開催国 (中国)	
	A.	B.
日本 〈人/人日〉	A.	5/ 15
	B.	5
フランス 〈人/人日〉	A.	0/ 0
	B.	0
ドイツ 〈人/人日〉	A.	0/ 0
	B.	0
中国 〈人/人日〉	A.	10/ 10
	B.	10
スウェーデン 〈人/人日〉	A.	0/ 0
	B.	0
合計 〈人/人日〉	A.	15/ 25
	B.	15

- A. 本事業参加者 (参加研究者リストの研究者等)  
B. 一般参加者 (参加研究者リスト以外の研究者等)

※日数は、出張期間（渡航日、帰国日を含めた期間）としてください。これによりがたい場合は、備考欄を設け、注意書きを付してください。

セミナー開催の目的	<p>本セミナーは、東北大学流体科学研究所と中国南京航空航天大学で、流体科学と知的構造の航空工学への展開に関する共同研究に関連する学術交流を目的として開催する。本拠点研究以外のメンバー以外からも数多くの参加を得て、本共同研究の様々な展開を議論する。</p>	
期待される成果	<p>日本、中国の2ヶ国による共同研究の成果について、情報の共有を行い、流体科学と知的構造の航空工学への展開について議論を行う。本共同研究の新たな展開や、本共同研究における日本と中国との共同研究の深化が期待される。また、本研究組織のアジアにおけるプレゼンスを高める効果も期待できる。</p>	
セミナーの運営組織	<p>以下のメンバーにより企画運営を行う。 高木 敏行・東北大学流体科学研究所・教授 QIU, Jinhao・Nanjing University of Aeronautics and Astronautics・Professor</p>	
開催経費 分担内容	日本側	内容 外国旅費
	(中国)側	<p>内容 会場費 印刷製本費 会議費</p>

### 8-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

平成27年度は実施しない

### 8-4 中間評価の指摘事項等を踏まえた対応

該当無し

## 9. 平成27年度研究交流計画総人数・人日数

### 9-1 相手国との交流計画

派遣先 派遣元	日本 〈人/人日〉	フランス 〈人/人日〉	ドイツ 〈人/人日〉	中国 〈人/人日〉	スウェーデン 〈人/人日〉	合計 〈人/人日〉
日本 〈人/人日〉		38/329 ( 38/375 )	4/51 ( 2/14 )	13/45 ( 12/40 )	5/35 ( 2/14 )	60/460 ( 54/443 )
フランス 〈人/人日〉	( 23/390 )		( 2/10 )	( 1/7 )	( 1/5 )	0/0 ( 27/412 )
ドイツ 〈人/人日〉	( 9/49 )	( 5/39 )		( 3/21 )	( 1/5 )	0/0 ( 18/114 )
中国 〈人/人日〉	( 11/55 )	( 5/41 )	( 1/7 )		( 1/7 )	0/0 ( 18/110 )
スウェーデン 〈人/人日〉	( 9/49 )	( 5/39 )	( 1/5 )	( 1/7 )		0/0 ( 16/100 )
合計 〈人/人日〉	0/0 ( 52/543 )	38/329 ( 53/494 )	4/51 ( 6/36 )	13/45 ( 17/75 )	5/35 ( 5/31 )	60/460 ( 133/1179 )

※各国別に、研究者交流・共同研究・セミナーにて交流する人数・人日数を記載してください。(なお、記入の仕方の詳細については「記入上の注意」を参考にしてください。)

※相手国側マッチングファンドなど、本事業経費によらない交流についても、カッコ書きで記入してください。

### 9-2 国内での交流計画

15/45 (人/人日)
--------------

10. 平成27年度経費使用見込み額

(単位 円)

	経費内訳	金額	備考
研究交流経費	国内旅費	790,000	国内旅費、外国旅費の合計は、研究交流経費の50%以上であること。
	外国旅費	12,750,000	
	謝金	90,000	
	備品・消耗品 購入費	210,000	
	その他の経費	660,000	
	外国旅費・謝 金等に係る消 費税	0	
	計	14,500,000	研究交流経費配分額以内であること。
業務委託手数料		1,450,000	研究交流経費の10%を上限とし、必要な額であること。また、消費税額は内額とする。
合 計		15,950,000	